別13
25
28
別圖
9

国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

13-28

もんかく

実に源民乃此代よりてさせ給ひしゆゑ建来我
くりくさげねりよりとまたのくにまたるべ
まんじの大将にえんとうむしやとうふさう
その子に童教たきぐちもりとうとゆせしう
出家してのりいこゆう我もんがくとうゆ
まきそのころあらさろ大将我くいそしん
こんけうにふをうけこく称つに笠をきす
まんとうのさむき夜より梅をまのりすをも
かさごのを大こう称うつきを七変と我り熊野の此

国立国会図書館　タイトル『もんかく』　請求記号　本別13-28

ガラス使用

なちのたきに三七日うちまゐ正月は大聖明王
にあひ奉りしりはまそにぶんしやとこそ中
世れ三度こゝやこへのがりあさご山のふりと
富尾のしんあしと中古ちに法庭をしりうろ
さうしいふつくを建立すへきすこそ中堂
なまま門しゆろこんまうあり為しとて海中
らくぐまいをくまんぶんしてまいられしり東山
ぬん乃は所なうちうしどのへまいり

国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

是ハたかをのしんごじの孫はさぶうれ勅
ぢんに参りてはほうわうが御まへとをんげくれ
くわんぢんちやうをたゞうふしうよそく上けま
しは五卯月上旬の事なるうり　をそさくう
ちうわ乃ちくそさむかくでそうに志くまね
うの花の雪をは庭よりちくさくやまかく
きす村雨にぬまてさまうろわかしよ雲上め
くわんぎんかうの字也　上らうくちハ法親
してそうくありあの法師役目にまいま法
かうがるべしとの法談也そんがく此旨ま神

雲上乃くわんぎんかうとや聲をさんくてひそ
孫うとうの御そひい一さんのおいぐさうぶ孫
はきぶうの勅進を未世のさめありあろすや
くわんぎんかう跡とぐめ法かうがあまともめん
がくいみくわんぢんちやうをたゞうふこそ
よくあけぼま上らうちはらんしてそう
くありあのあんしを舞ひおせとれ法親也

国立国会図書館　タイトル『もんかく』　請求記号　本別13-28

ガラス使用

なるはいくさひ主を里をとそいふ屋けまゝ
安乃うへのちぢよく我あるふるところ者い
こんなり清こく掛をあんずるにせんぢ也
乃二十八ふしゆ茉師の十二神将とかうさん
せくさり屋しや的王のかうまの里きんを引
さけてあく海を退治し給ふに何そもんく
かこひ志こうはきんハいの川のまうそと思ひ
うすぢこそめのあろをのそで我く涙くと
くりあけくめて乃目きこよ里をあるり此やう
成鰯とねきをつふせくされ那と小青絹我

ヒハ人時刻をうけされさしころをしゆ也
乃ふしたあり川まゆくさうをあてにかましめて
庭上乃こふハ引すへたり　上らうこちハ
御諸ん志そ那かうをのこをんかくとはあの
那しか事かいそきうんを我ちよと儀
せらまけまはまて小死罷をよひかり

国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

れなり次第明り　かくて十月計うちまきて
ぞんかく乃ろうのあらりに教ることこの内に
ひじ里しくとありしりは文学きうしめされ
てうやうにさく川にありて後とひく所者
をる紀をのを一向に里建坂うしかいんとの
せんじにくありきりなちよくあく世中なり
あひさそ建とそをちりうるしとこそ給けま
さいなりしきくちうこう菜師いまうせんせい
よ里の所綻にはこと人たあのしやをんこう
たうい乃ものといひなりうあらさう大約坂

くいこそいまいこそ　殺威就せ　今度のいのら
をこまけなき諸殺せさせんとの所ぢゆうまて
十二神乃中よりをこんひら大志ゆう所所ひ
に来りていとく川のくらき屋をるしも取り
乃所かを坂さまりぞ所が此ひりこてらし
てゆけ食事乃里のまなりはとてをくすり
坂坂さすりうへ菜坂ふくして命を所げそ建
給り建屋をんがくとそ　ぎにあて屋りなり
所屋まて　取りの所がをそ　くさき建きり
ぎにとくらき屋をは所かの出りぞてらし

かりしよくじ乃里のあるときいくす里城
ぶくしていのちをはぐ何にも身の如くろふ
色きを屋せを黒まずもんがゝい日数城をくり
こまひ事り　又十日ちうりおきちうこう
屋くしいまうせんせいよりの法院の法衣様
よこくのにこそらんよりを我およきこり諸
種城よこぶらにをこそ百日をまりへしとの
法院也文学取くりやうにとくりに勝て何と
してかもお色きそを時こんひらちらをこそ
さやうの心中にてこそうる無明の色を変重

神通自在こうる色くをるとかたやすくおさう
色きそんかく事にもとおほしめし居ろう所
を立とおりへた　その身ハきしのことくりて
いてられ事るそ　志也せうるう　さてこん
ひらとうち法まくちうこう菜師に乗り法く
きゆう城よこぶらにをこそ給ひこゝあらしくら
すとせしかとにもや百日に明りたし事り
まんじ事る東宮りうこしけなく之法中
当をみちゆう乃うちよ里もあらたりし法こ系
をいぐさせ給ひいりにもんかく日数をけふまを

百日とおなじなり人のあし緒を取ゆるいが
ぎさろ乃ぎやうにあらすやいそきこころに
うつりなうまうよ里の法弱にあふ事しとの
法説也兼ろとやて悪きとくれにうへらく
さろあひたなうまうよりの法説にいまし時れ
ひじ里は日うすもまふは百日とおなじたり
いそきとくれをあけあとをはとふこ故させ
よとのせんしなまはくまんにんらまきくも
をまれくいくとくれ我あけくこてあまは
取せもせは　くろこもせは　いとく氣気は

あて取りに所にして然てお給ふ官人きこをを
法ぶし法に東西へたつとあけちのうり文学
法らんしてなふなとてとうてんし給ふ
そあまはいましときのひし里にくまる紀うと
まんうくにちら我法けられてやうくあろ
我とりな我しまんうくを志もあしまりなう
ちうしとの事そ乗りまろ

国立国会図書館　タイトル『もんかく』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

上らうゝらハ作読して作あれ見ん事ハ世志ゝをもまゝ
ねぢさせ給ふなりまうえいらん御しして
志也せうなりもんかく作りなんあり兼者(ぐしや)れ
作くろ善(ぜん)ハぜんとりかれ作ゝちしやれ作くる
作ゝハ罷(一ゝ)ともよせんとは今こそ思ひ志ゝ事
て以へ作ゝはなし時の動進ちやう我ゝのこゝ以へ
ちやうをむあるなしとの作説也もんかく作る
まくくもんぢむちやうがあらはこう時刻ゝ川
してかなりしと特ゐるあるあきをなし起ろけ
くもんぢんちやうをたゝらかゝこゝ上書き連



国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

志やそそんく数日あとにい貴嬢こうそく
乃助成我りうふりて高尾山のまいちにし一
ぬん我建立し二世あんらくの大禅我こん
きゅうせしめんとあう勧進の状そまひそうに
おそむ見まほしんによくまうこい也　志ゆう
ふん乃けゆう我立といへとかんしやうまい
まうのくそあ川をおかんて十二いん志んれ
こ孫に当れ引しより以来ぶ志んてん此月
乃出りかすうにしていまこ三塩四万れこい
きよにあらりまを　かるしきうな佛日ちゆ

をかして生死なてんのちまこゆうくまり
只いろにふけ里魚にふけるこまゆうさう
てうえんの海とひをしやせん　いこ法らに
人をたうし法をたうをもあいゑんらこく
そのせめをまぬりまむや　家に文学に海
くぞくぢんを折拂こ法衣をうさるといへ
と無釣おこうろにこく海しくして日夜に法を
我法くりせん為う又こくにさうつく鈴鶯に
をこうりいこまし　きうな二度三法れくまゆう
に海くなりく空生のをりまんをめくらさん事

を此ゆへ不無二乃まんしやう子万ちくく
に伝経乃いんをあらしすいえん至城此なう
一川としてなくいのひうんよりさらはと云
事なりかゝゆへにまんかく無常のくまん
まんりなんさ我なりし上下のしんそくを
すくめ上なんまんこいのえん我むまひとう
めうかくまうのまいちやう我こそむとなり
そまこうれい山う川なしてしゆふせん此こ
すゑ我為うし若しりてしゆうさん
とう乃こけ我しけ里うんせんむせんてぬの

我引まいしんさまんこえこりあそふしん
里んをしてけうちんなししせきことんるふ
してしくむのこありちけいすくれこりむ
ふりてんをあらむへしなうかまこしきなり
こまゆ助成せざるんやなのうふ守しゆしや
ねふ川こうまとくこうまちふりしんをうん
まいてんやいりしませんのなうさいりをひく
をや称りいくい建立成就してきんまんなう
里さはくまんしんまんなんしとひ里んこん
しんきんしんそきやうしゆんふゆのくま我

とくひしんにしよさいくまい乃志ゑをひろうん
ことにはしやうまやうゆうきお後大にすゑ
やらに一佛しんもん乃うてなに至りかるゝは
さんしん万とく乃月城もてあそさんよ門く
勤進しゆきやう乃をもむ紀けこしき門くく
乃あとし治義三年三月日きんくたうとそ
よくあけをり　ゆうまうえいらん御しく
てしゆせうなりとよもんかく板いこんしや
まてましくをりやけふよりしゆくもんかく
上人にふせをきやいそ紀我山へあり是給へ



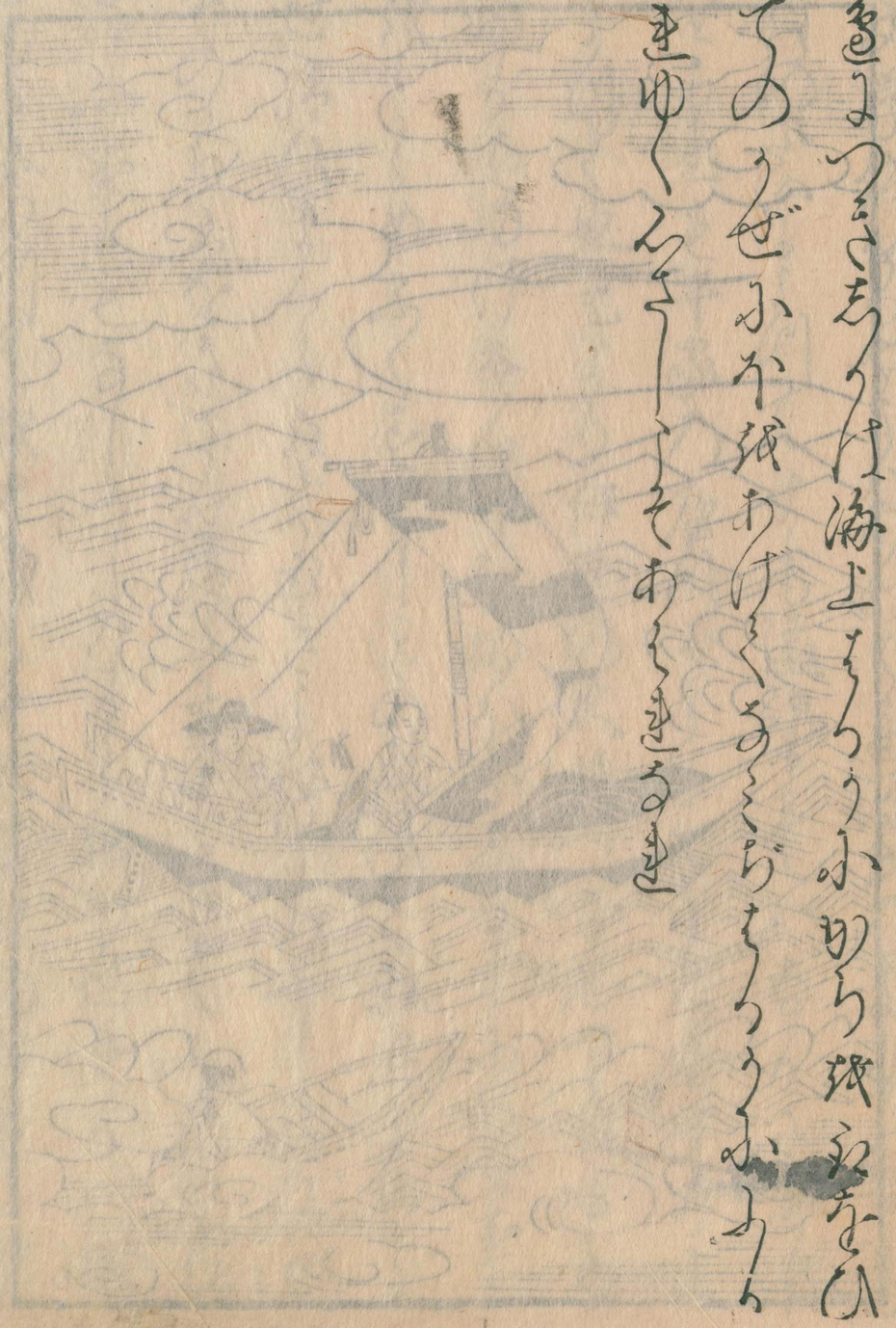
国立国会図書館　タイトル『もんかく』　請求記号　本別13-28
ガラス使用

七てう拾かちまうら御く朱をたろうかなる
むまは青羽乃山の松ゝ物ハをのまてきんや
あらふらんかりとよ拾つうたきたかハなる
なるまたゝ清多寺当ハせんぢ也せんぢん
まやくかせいくまんのたちうひもさしさ海ハ
まは今一度こやこへかし給へときせいして
かし拾ちうかなるむまは丹波かおひれ山
こ孫乃こうたかのたうさうかう里んしう川
まさ乃屋くしかな紙もなるりありきさかは
鞠馬関山鬼門よあさりこひえいさん中こう

茶師乃十二神さて我やまの十二神こんひら
大将七子の屋しやかに野拾ちいしさてまつり
もんかくかひきひの拾ん家れざいをなさめ
清こ今一度朝へ也し給へときせいして南を
ちうかなるむまは八幡山かたりきりの石
清多かやかうらんかいとく室こ川見せい里こさ
こんかう八まん孫りいく名番ん拾まりり
こひ給へときせいをやさせ給ひ清こ志川り
絶り乃当羽院乃清さんさうよそなりこふし
拾りこ刑部左衛門なかしかそのきうせこと

我こうかいにゝ海をせきあへを念仏申程
をこのこそのゆふまいをとゝふらひくよくれ津
に川きけまはたやうをふひにこ川さまてこの
にまうせてなうまゆくらほ我たうかになうり
むまはこと乃孫志ら姫うさん屋の里はさい
こ中ね乃海志ろ乃こうをてにすへしかこ
のこたら乃かりあろをいまきてこうそこのし
な紀めくハ山濱(ざさ)関戸れぬんこまうこそまん
たうらなひ家我我たけうとりかひれうり
八里を見うとよ志のをたけこう古佛をも安

亀につきたりは海上たううにかり我和なひ
てのうぜにか我あげくなこぢたううにふり
まゆくんさしこそあたまなまま



国立国会図書館　タイトル『もんかく』　請求記号　本別13-28
ガラス使用

文学給をうやうハあつたまき源氏乃よなわせまう
鎌のぶいまよりてよりも遠鴻まそハるうさまし
をあまを平家乃屋川だらうてうくをすらよ
よりく也是より伊豆の大鴻へまん十日まを
ゆうそゆけ書んしを海が見るしかハ食事
我とくめふくをましとの給ひて私庭よりら
せ給ひまうらねて記さよせうらかし給ひて
そのちをきさせ給ふ事をなく又孫いり
給ふ事をなしかしなりうれをせまうハ梅
あくそいりまし我と我うそ天王寺のおきとや

そんかく此日まく吳西ますてをなんかく大師
我朝ふくは聖徳太子庇生さいどのぶひふり
しさりとも佛法方のもんかくをはよそ
まて給りしなさてあくまい川見我と我家そ
すこよしさうひうちのこゝなと　わり吹あけ
やゝ海津し海　ぬのひきのまゝ川きゝゐてら
蔵志ろこうけゆゝ乃みなと　きり色れ王子
ちり乃ちま　こゝなへたるへのおきをきてな
ち乃おきとそ申まうそんかく此日まて我は
法山にまゐり三七日滅ふこれ志ゆう志ん此

大聖明王ありあひまりしをとさいたやごん
ちやとしそいたまゝふなふとなてなひなし
こゝ文学うぎゆうぞや寂ハ川見そもまれ安
さのく松原太史の松影家のこゝなといこれ里
いせ乃西し海の西馬張冬河のおきゐこてん
里うのなさに法き給ふ　故なことゝ東西
一乃西所也ふじのこゝ称に黒雲ゝ二なゝ三
なゝさ川とかゝろと見こしうはあまきしきの
うりゝをなるををとひそかこそをおろしかた
志うを立なる我せしい色ゝ時割えなりをり

いせの國くのかあらしといふ風か海十文字
に吹まりかりくま賀成新宮ゆろしまうしろ
かふく一方なるまゝ四五方より　もしあり世
あり風なまゝ　柏木をえんさ城ゆろしてふく
きくえう城あらひくさの根をうへしてあくり
なるまゝひとへにまゝりのこれかしとくなり四
方のうせか一度にまんとも三あるせしふく
とさまゝ今いこのふひうなふ色きやうあらす
してかくさる城こそくくるりしくとめくり
まり私のうりるものともか聲をそろへて

一同に南無阿ゑさふんとやけまとも私庶成
りんかくまなに思ふたましきもまし海さを
そらいひきしてこそふさまけましもこれ
ふし梅(うらとも)ともあのよし城こうよりもあらぶ
こうなあの神じ里やなへも神んせんなんと
りて案こうとうや先うろ風波(た)れなんなるも
浦きあうこうこうに城こて諸神なふ志四れき
こうなんともあり色きに此ゆきあさ我こう
死せんまろ事ともまあのをんかくゆへと
ゆかゆりなりふなそこよりひきいたし海へ

入れといふ事あり又五方のせんきにはまさ
くしなるぬをんかくなまはいくハせんと云
事ありかやうにいろしくさこさ志まりを聖ハ
きこしめさ事まとをいよ〳〵きりぬてい我
してそらいひきしてこそ梅さまきれかり
まりところにとも打なきかあまりて文学此
法ふりのうへをさんと聞くそと綴りまりを
時もんかくまうを立ふしこうところをめり
まと抱きふ〇の色いこにはんこちあり聞く大
音あけくいりにあのおきを上人かと綴りと

志ぬりえさこそ事にんといひなりう詩五
こにもあなはりて此なきか物をこしまりハ
大詩めりまきか小詩めかまきか毎風座めぬ
そのなりは里うくうとはいふましきそりん
かくまけ入そくためしをたりまくまうそえ詩
五めまうまうめとそいりられまり志也こ此
ふし梅花とも此世我きくよりをさまはこそ
をんかくにはもやそのかはいそくりはる
そ里うまうめとさうこんせもいそなきかせ
やむ色きそ見にはけてをましくか死せん

すゝ事とも そうしてうひあしとゆつくりよ
ゝく念佛志けまとともひじ里ハちつとをどこう
そんせば里うまうめとそいりられけるをん
くゝ乃清あろすゑたのもしうそ忍ゝスリ事ろ



国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

かゝ里きりさゝろ小説んはらさうはゆふ　ゝう
新女一人なゝ乃うへ有うう記まをはゝま
とう思ひ百里うくうのなゝひめまゝひさい女
とはゝつゝなり聖人の此なゝ此うへを通らせ
給ふ我おりゝゝ中さんせ為り此のまゝなへ
より立元まてつきそひ中せ此ふ〇此うらに
きゝよ志んあゝくなきさう世給ふ事を有し蘭ゝ大
僧の此嚢小あるら世給ひてい又い川此よふ
かれ杉うゝ中為きと思此なゝ風をうゝ世中
上人乃此まゝて我後中事此ゝ事かゝさゝ今

い十六の此の落成仏とくゝろうゝひなし
いさはらはあうもの風やめて氣らせんとて
かきけす屋うようせきれも　いまゝ迄あまて
抱て語しき屋ゝうゝの抱りて為いくとし
をひての風かふきけまはしゆこ此ふし梅部
とも上人をらいしゝてまろりろかひうら
をゝて有我し風小雨かせくふりまはは部を
立く文学伴豆乃大僧まて又十又日よ若給ふ
食事我とくめ給ひしゝ也きん我雨かない
りまなり　うくてもんうく也大し雨此観音

ぶうりあるらせ給へはけいあの人くも法
いと後中殿へようかへりけまゝ家にもりんかく
乃法弟子にかくをんはうとゆておはせしか
行時をはるれ中さ孫とも今度ハ家さい此度
なまはちくをよはす一人こゝやこにとくまゐ
てなけく事をうきりをなしかくてをあら
まぬ事なまはあとをしたひやくさらも
やと思ひなんこうにさしかり我我日に法い
てくらゝ御とに大鳴のくるんぬんだうに乗り
上人にあひこてまつりよろあふ事いかき

里をなしくて師弟子の人くハ観音堂より法
座を要逢ともあらり乃里人まいりこれとも
中人をなし何としてかはちらはけむと思ひ
さうきやう乃法我をなはせ給ふあうすら
かゝ八十日迄しかゝ八十日をこなはせ給ふ



国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

打落りんりく初葉乃法とめのそのためより
寄座にあらせ給ひしか只今うしろうさうれ
えん乃いこのなつうをと我門召ひし里を
ふしんに招りひ志かんを知く見給へたと我
くも百日ちりくハ又十日の間に日本れあり
志となる人乃あしをとゝ聖こうる度れふしき
さよと師弟子法掛鏡ありけまは報約うしろ
こうまてきこし免しあらめくこのうゝかさ
やは是にましこう事あしいさをとらん
と給ぎまはりなう取りかうきんちとゝ、

乃上人に法對面をくな我しく志れめてさ
かり色き事共法こうひあまとゆよりとを
ぎにかりと思召法とめ一座の色分まてうしろ
こうにこうち座すらも世給ふかくて川とめを
をきぎまはこしいまに乃まま人にすこへと給
ぎりよりとも法座にる我らせ給ふをんかく
法鏡してあらふしきや法男ハ諸人そまらハ
名ハもんじゆ子ぎんふくめされて三後共傍
乃すけ報朝にて御します事よりとも御しき
にお問しめしさんはと招引せ参りもんかく

拙不世者ゝ者清男乃ちくよしとを此なまゝる
ゝそゝ見たきうと給きれたりともきゝし
給されて見ゝくはともこゝかなるゝともなる
しくやうりをなしいてしくはらはこゝ世や
さんとそゝなるをひをひきよせからけるも
ゆゝしくとひめとひて上こんよりをかしき
七重に清こゝろさまこゝろうゝ色を知いし
見しそは男の父よしとを此なまゝるゝそよ見
給へとて新物乃は手にまいらせらるゝより
とを給らんして文に誠と拙不さ〇ゝさあら

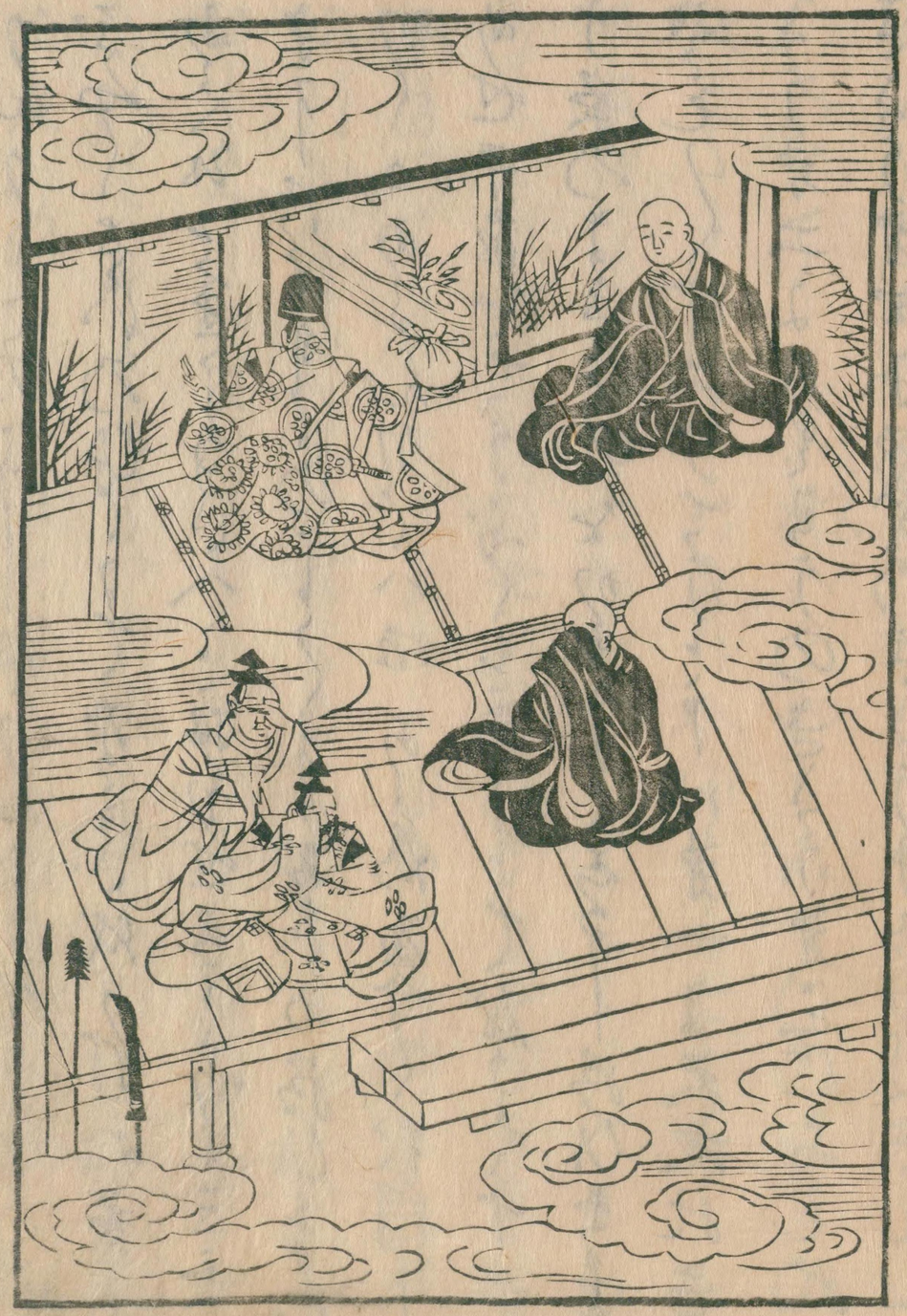
ねていにもてなしそゝなるゝ清く忘りを紀
給ふ文学給らんしてかとふりゆゝ良なまは
さゝめて清こゝろひあらへしその志るしを
見世やさんとて清く忘るゝうゝ色にむらひ
兵湧作よりともこそ先遠東里給へ義物(よりとも)より
ともと二三度よりも世給へたさまこゝろうゝ色
乃うゝよ里を給なまゝそゝきそ来かあらね
もとは整かすゝよやこゝをまは其時よ里とを
清く忘るゝかうへをとりあけ給そそ此うへ
よの事こゝろしくとさしあけ　只今いきこゝろ



国立国会図書館　タイトル『もんかく』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

人にものはなしふせいにてさそてをゆし故か
まていは佐ゆせしらくらさいくもしゆきを
ふるさゞり松乃為んまてをひをくれ来らせ
来をかのくと明るまてまうけれやまより
間よひしらよらいなうしの大将大臣れちう
きといふものあとよりましけくをつかけを
てになんきにをよひし我きこを江いふきの
ふりと草賀乃広目にこまけられりまかとこ
ろまてとし我をくり妻まをるくは佐あと我
しらひやさんと知りひしに尾張のねさだに

うこれさせこまひ浩くひのかり獄門にかく
まろよしを義らせめくハかりらせ語ふ浩を
うこ我なり先見まいらむとねりひ　草賀れ
さと我こらいてしのひこやこへよりかり
いま佐かいらといふところまて深平兵衛に
いけとらまうき六ちらへまこさまて六てう
河原にくまそに死罷りをよひしをいけれ
にこうにこすけられ此西へう川されく二十
余年乃妻秋我をくりむへくまきゆけ先おを
父乃佐事をまれやるもすあまるもん



国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

られまうあまやあの事んしれたんしやうれ
たしめとやうをり　三段もんかくさしうき
乃あしをはくらせうなうのえんにうさすへ
こくうはむ月ゆかせまうハもんかくこそ
たくいまよ上海はうまり是あしかきやあうと
ゆかせをまはなんとあらへそ猶をなくまき
しや二人さうり

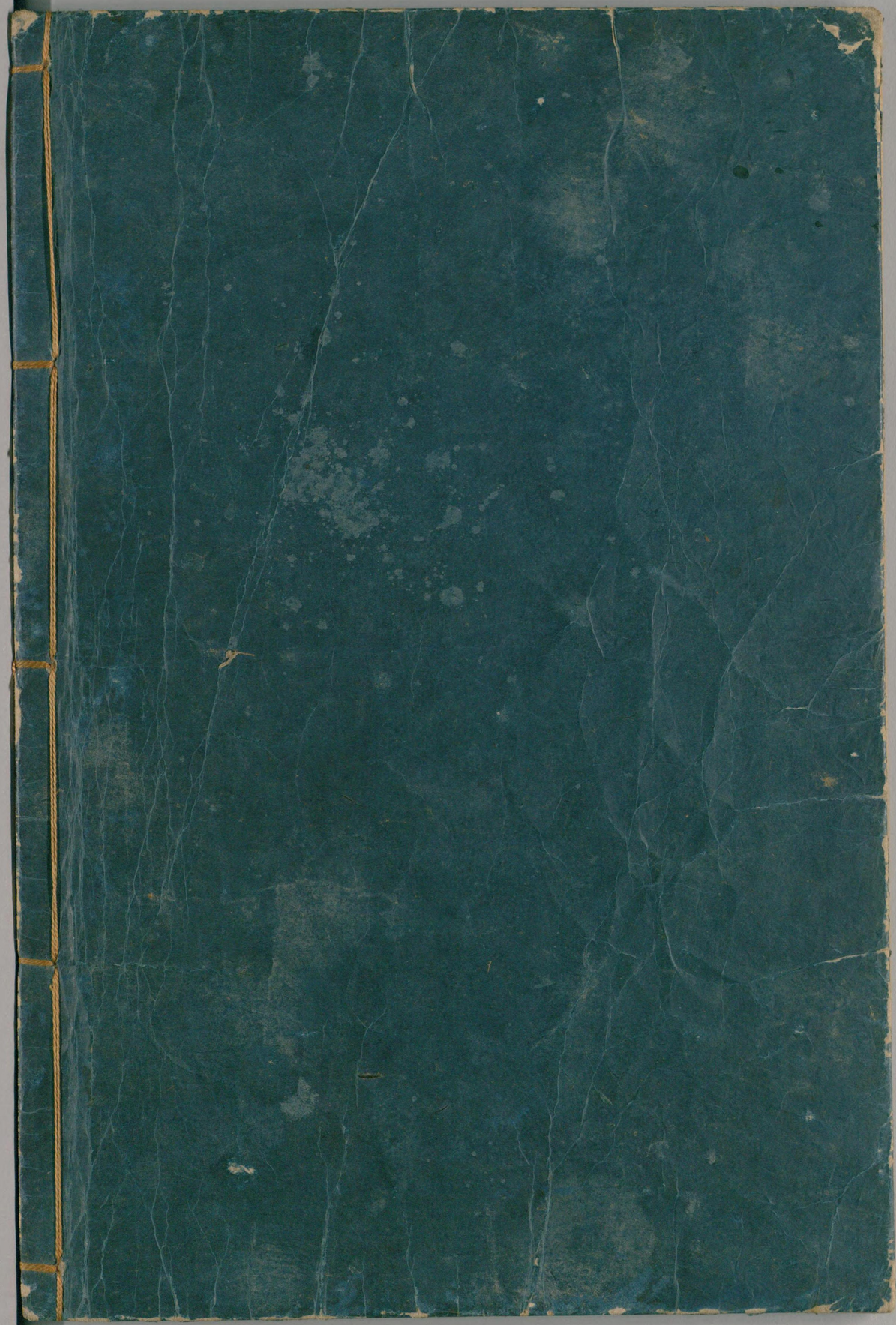
法こしをうな　こくうへあるとゝ見
えしかはせ川なるが法ひごとりまうだ
やう乃ぎをんだやしの法き給ふ記るる人
めをたゞらりよふいまたもんかく四条はまち
へこちいてゝかずの名ぶつ我かひあ川め紙
園だやしのをうちり三ぢうふぶん我つき
七ぢうふまれをゆひ百八十本の色いくしを
きりこそかずの人形を作て平家はむ孫との
うんかくの名字名家我書しるしてうぶくは
法我をこなりるく三七日ふまんすらとさよ

こん中こんこんの百八十本の色いくしも
一度りたんとみこまあひ平家のむ孫との
雲房乃法くひきまてこゝあうまうの里まんり
立と見えしかは一法ハ成就しこりとてこん
を取ゆくいて給ふかくてしゆ思いのあきは
あろ平家こゝやこ我相とさまに法ゐふいくさよ
うこましてあろひたてさせ給ひしいもん
かくのいきと我りあはきゆへとそやこまる

別13
25
28

国立国会図書館　タイトル『もんかく』 請求記号 本別13-28

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『もんかく』　請求記号　本別13-28

ガラス使用